

せいのみかた

2017年 vol.3

犯罪から 青少年を守る!



神奈川県議会議員
 ・ 予算委員会理事
 ・ 議会運営委員会委員
 など歴任

飯田 満 みつる

18歳未満の深夜外出(夜11時から朝4時まで)は条例違反

神奈川県では、望ましくない社会環境から青少年を守り、保護し、次世代を担う青少年の健全育成を図るため、18歳未満の深夜外出を規制し、その責務を保護者に課しています。

平成27年2月、川崎市川崎区の河川敷で当時中学1年生の男子生徒が多摩川を全裸で泳がされ、直後に刺殺された事件や大阪府高槻市では、寝屋川市在住の当時中学1年生の男女が殺害される痛まし



い事件が発生しています。共通して言えることは、被害生徒が深夜に外出していることです。

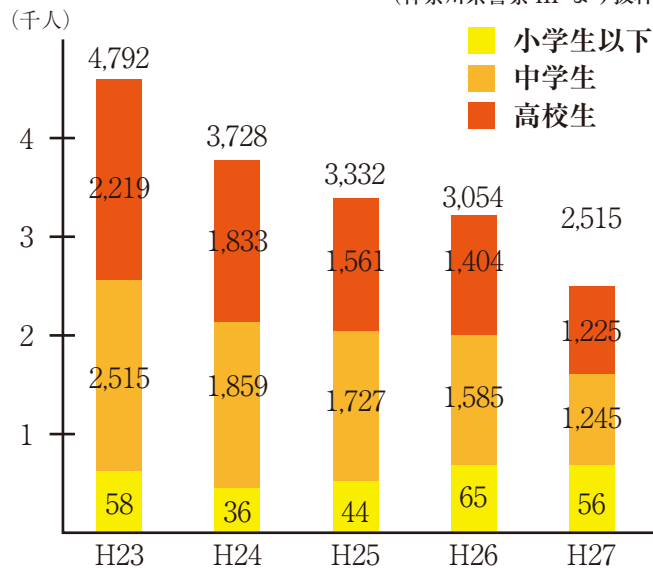
青少年達が犯罪に巻き込まれる事件や青少年を加害者にさせない取組みとして、神奈川県では、望ましくない社会環境から青少年達を保護し、次世代を担う青少年の健全育成を図るために「県青少年保護育成条例」を施行しています。

条例では「保護者は、特別な事情※がある場合のほか、深夜(夜11時から朝4時まで)青少年を外出させてはならない」と規定され、更に保護者同伴での深夜外出も制限されています。

夏休みには、地域のお祭りや花火大会など楽しいイベントなどもあり、気持ちもどこか開放的になりがちです。つい青少年達の夜の外出時間帯も伸びつつあります。青少年が事件、事故に巻き込まれたり、事件の加害者にさせないためにも保護者の皆様の協力が必要です。また、深夜に青少年の不自然な外出を見かけた場合は、速やかに110番通報をお願いします。

□ 刑法犯で検挙・補導した少年の推移

(神奈川県警察 HP より抜粋)



※特別な事情とは、塾や夜学、夜勤、新聞配達。スポーツ等の合宿及び深夜に行われる祭礼、年越し初詣など行事が深夜に行われ、かつ、その行事参加が地域社会の一員として青少年の自覚を促し、健全育成に資する場合のことを言います。



飯田満 VS 黒岩知事

PCB処理費が約70億円

予算員会で黒岩知事と PCB廃棄物処理を論戦

飯田委員 昭和43年、カネミ倉庫（本社：北九州）製の食用油を使用した料理で西日本一帯の約1万4000人に被害をもたらしたのが「カネミ油症事件」だ。食用油に含まれるPCBが化学反応して起きるダイオキシン類、PCDFの猛毒が体内に入り込んだことによって、吹き出物や内臓疾患、癌などの被害が報告されている。

直接、このダイオキシン類を摂取した被害者は勿論、その被害者の子供にまで被害が出ている。いわゆる「黒い赤ちゃん」が生まれるという被害が発生した。事件発生から既に48年、今なお被害者の方々はこの事件によって苦しめられている。

我が国においては、特別措置法が施行され、平成35年3月31日までに高濃度PCB廃棄物の処理を完了させることになっている。

本県企業局で処理をしたPCB廃棄物の台数と処理費用は。

企業局 変圧器、コンデンサー、安定器の合計857台のうち、平成28年度までに処理した台数は、変圧器30台、コンデンサー12台。処理費用は約1億6000万。

飯田委員 県有施設にあるPCBすべてを処理するとなると処理費用は。

資源循環推進課長 すでに処理済みの

ものも含めて、約70億円。
飯田委員 県有施設で保管するPCBは、全額、県民の血税を使って処理しなければならない。

まずは調査が必要で、その調査とはPCBが含まれているか否かの仕分けが必要。また、仕分けをするPCBの正確な総数と総重量を確定させることが求められる。同時に、安定器からの漏洩、危険度調査の調査もやってくる必要がある。調査を徹底的におこなって、70億円の費用を少なくするかが、行政の腕の見せ所だ。そこで、黒岩知事のPCB廃棄物処理に関しての所見を伺う。

黒岩知事 一貫してこの問題を追及される飯田議員のかける思い、この問題の重要性を私も認識したところだ。PCBは人の健康に大きな被害を及ぼす有害物質で、その処理について国をあげて取り組んでいる。

また、処理費用の低減を図ることの重要性も認識している。PCB廃棄物として保管されている機器の中にはPCBを含まないものもあると考えられるので、それを処理の対象から除く調査を正確に実施して行く。

県は安全の確保に十分配慮するとともに、経費の削減にも努め、自ら保管する処理を着実に進めて行く。

飯田委員 県民の安全性をしっかりと担保するためにも、PCB処理を行って行く必要がある。是非、着実な処理を求める。

PCBとは？

PCBとはポリ塩化ビフェニルの略称。PCBは、絶縁性、不燃性などの特性によりトランス、コンデンサの電気機器をはじめ、幅広い用途に使用されていましたが、昭和43年に「カネミ油症事件」が発生し、PCBはその原因物質になりました。その毒性は社会問題化し、我が国では昭和47年以降、その製造は行われていません。



飯田満 人生の足跡

- 昭和46年5月9日
川崎市生まれ
- 横浜市立瀬谷中学校
 - 東海大山形高校
 - プリンスホテル
 - 衆議院議員 中田宏秘書
 - 横浜市長 中田宏秘書
 - 川崎市議会議員(2期8年)
 - 現在 神奈川県議会議員
 - 妻と子供3人の5人家族



ともに生きる

翔子

ともに生きる社会かながわ憲章

平成28年10月14日 神奈川県

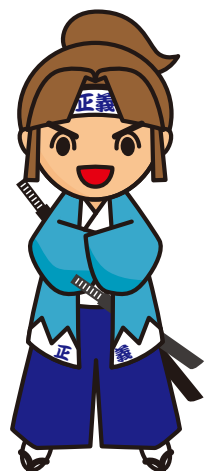


題字「ともに生きる」
ダウン症の女流書家 金澤翔子

1985年東京都生まれ。5歳から書を書き始め、20歳で初個展。その後、鎌倉・建長寺、京都・建仁寺で毎年個展を開催するほか、奈良・東大寺など数多くの寺社で揮毫（きごう）および書の奉納を行う。NHK大河ドラマ「平清盛」のタイトル題字も手がけるなど多方面で活躍。日本福祉大学客員准教授。

この悲しみを力に、ともに生きる社会を実現します

- 一 私たちは、**あたたかい心**をもって、すべての人のいのちを大切にします。
- 一 私たちは、**誰もがその人らしく暮らすことのできる**地域社会を実現します
- 一 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる**壁**、いかなる**偏見**や**差別**も排除します
- 一 私たちは、この憲章の実現に向けて、**県民総ぐるみ**で取り組みます



飯田満の県政情報満載

ホームページでも
日々の活動を紹介しております。
詳しくは **飯田満** **検索** www.iidaman.net

 www.facebook.com/iidaman.net

